



十高だより

平成 30 年度
3 月号
(第 6 号)
2019.3.22.発行

秋田県立十和田高等学校
TEL:0186-35-2062
FAX:0186-35-2272
総務部

平成 30 年度卒業式

今年もまた多くの生徒がこの学び舎を巣立っていきました。

3月2日(土)に行われた卒業式では、92名の卒業生に卒業証書が授与されました。当日は快晴に恵まれ、卒業生の前途を祝福してくれているかのような様子でした。

それぞれの思いを胸に、次なるステージに向かって力強く羽ばたいていってほしいと思います。時に迷うことがあるかもしれませんが、ここで過ごした高校生活を糧に、歩いていって下さい。

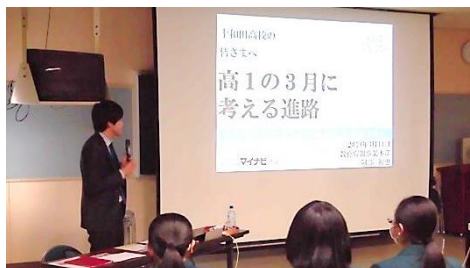


修了式

3月20日(水)に修了式が行われました。春休みとなり、いよいよ1年間の大きな節目を迎えます。校長先生の「1年前の自分と比べて1年後はどれだけ成長しているか」との言葉にもあったように、これからの学校生活をどのように過ごしていきたいかをよく考え、新年度を迎えてほしいと思います。たとえ小さな変化でも、自分にとっては確かな「成長」です。新たな自分を発見するために、学ぶ気持ちを忘れずにこれからを過ごしましょう。

1 年生進路講演会

1年生を対象に『高1の3月に考える進路』と題して、3月14日に進路講演会を行いました。高校で学んでいることが自己実現に直結することを自覚し、日々の学業がいかに重要であるかを改めて知ることができました。



2 年生進路講演会①

3月15日(金)にリクルートマーケティングパートナーズより吉田望さんを講師として招き、2年生を対象に進路講演会を実施しました。さらに大きな変化を迎える社会に必要な力は、変わらず「自ら課題を発見して解決する力」であり、そうして理想を実現していくことが「社会で働く」ということだとの話を頂きました。



特に10年後の社会については、AIの導入による職種の変化やグローバル化、寿命が大きく伸びることなど様々考えられます。外国人労働者の増加ということまで考えると、これからどのような仕事を選ぶかという決断も大変難しいものになってきます。生徒からは、「だからこそ今からしっかりと進路について考えなくてはいけない」といった感想が目立ちました。また、離職率についての内容では、自分との相性や適性について理解しておくことが重要とのことでした。自分に何が向いているかを考えるためにも、あらゆるものに対して「なぜ」と問う意識を大切にしてほしいとのことでした。

2 年生進路講演会②

就職活動の準備に向けて就職力を高めることを目的として、3月18日(月)にキャリアコンサルタントより3名の講師を招いて進路講演会を行いました。特に「会社づくりゲーム」では、面接の練習以上に面接官の視点を学ぶことができ、生徒にとって有意義なものとなりました。面接官役の生徒の間でも、誰を採用したいかという考えが人によって異なり、自分が目指すべき将来像を考えるよい機会になりました。



行事予定

- 3月26日(火) 離任式、表彰式
- 4月 5日(金) 新任式、始業式、整容指導
- 4月 8日(月) 入学式



卒業式 答辞（全文）

寒さの厳しかった冬も終わり、窓から見える風景もようやく春を感じさせるようになってまいりました。この佳き日に私たち卒業生のためにこのように厳かで、晴れやかな卒業式を挙げていただき、心より感謝いたします。これからの未来に対して、期待や不安が入り混じる中、こうして無事に卒業の日を迎えることが出来ました。本当にありがとうございます。

先ほどは、校長先生の御式辞、御来賓の方々から御祝辞や在校生から感謝と励ましの言葉を頂き、改めて身の引き締まる思いがしています。

今、十和田高校で過ごした日々を振り返ってみると、様々なことが思い出されます。

三年前の四月六日、ここで入学式を迎えました。これからの高校生活に胸を高鳴らせながら入場したのを、昨日のこのように覚えています。初めのうちは、あいさつをするだけで緊張し、ぎこちない雰囲気は漂っていましたが、日が経つにつれ、次第に賑やかになっていきました。

二年生になり、総合的な学習の時間の中で進路学習が増えていくにつれ、生徒それぞれが焦りを感じながらも真剣に自分の進路を考えるようになりました。

十月下旬の修学旅行では、京都での自主研修で、古き良き伝統が色濃く残った、日本の心の故郷と言えるような土地ならではの歴史や文化を肌で感じる事が出来ました。大阪のユニバーサルスタジオジャパンでは、ファンタジーな世界観の中でスリル満点なアトラクションを満喫しました。奈良では薬師寺のお坊様から有難い説法を聞くことで、家族への日頃の感謝の気持ちを改めて感じました。

この三年間の中で、特に思い出に残っているのが「十高三大行事」です。

四月の体育祭では、学年やクラスの垣根を越え、互いを応援し、切磋琢磨しながら、仲間と絆を深め合いました。

六月の十高祭では全校生徒二一六名にちなみ「にじいろ～雨のち晴れるや～」というテーマのもと、楽しく盛り上がる十高祭にしようという思いで、一つひとつに心を込めて準備しました。クラスパフォーマンスの「とわだんす」では、一人ひとりが振りを覚えて一般公開でも精一杯踊ることが出来ました。

九月に行われた強歩大会は昼の開催でした。一緒に走ってくれる友達に付いていけず何度も諦めようとしたのですが、その度に友達が励まし背中を押してくれました。ゴールした時の達成感は、決して忘れることができません。また、私たちが安全に完歩できたのは、沿道や関門での保護者の方々や地域の皆様からの御声

援や御協力があったからです。本当にありがとうございました。

この三年間は私たちに勉強だけでは決して学び得ることのできない、沢山の思い出を残してくれました。これらの思い出と、この十和田高校で育むことのできた友情が、私たちにとって、かけがえのない宝物です。

私たちがこうして成長することが出来たのは、校長先生始め先生方のおかげです。いつも私たちを陰ながら見守り、私たちが困っている時や問題を抱えている時には、一緒に考え、私たちが自分の手で解決できるように支援をして下さいました。また、私たちが間違った方向に進みそうな時は道からそれないように何度も諦めずに叱咤激励し、授業で分からなかったときには優しく指導して下さいました。いつでも私たち一人ひとりの進路を気に掛け、朝早くから夜遅くまで進路決定のために御指導していただきました。この十和田高校に入学して、先生方に出会わなければここまで成長することはできなかったと思います。先生方には大変感謝しています。

また、地域の皆様は「ふるさと教育かづの学」を始め、様々な活動においてご支援、ご協力をいただき、ありがとうございました。十和田高校を地域の学校としていつも見守り、大切に育てていただいていることに深く感謝申し上げます。

在校生の皆さんには、文武両道で活躍し、これまでの先輩方が築いてきた伝統や実績を、さらに積み上げて後輩に引き継いで欲しいと思います。皆さんには素晴らしい可能性があります。皆さんがその力を十分に発揮し、十和田高校がより発展していくことを期待します。

これまで育てて下さいました保護者の皆様に、卒業生を代表して感謝の言葉を述べさせていただきます。私たちの夢を一番近くにおいて、誰よりも応援して下さいました。家族がいたからこそどんな事にも安心して挑戦することが出来ました。これからは私たちが家族の支えになれるよう頑張ります。

私たち卒業生九十二名は、この十和田高校で学んだことを心に刻み、胸を張って、今日、十和田高校を巣立っていきます。

この十和田高校で学んだ校訓の「純・剛・忍」の精神を活かし、あらゆることに責任を持ちながらこれからの人生を歩んでいきたいと思っております。

最後になりましたが、私たちを支えてくださったすべての方々のご健勝と十和田高校のさらなる発展を祈念し、答辞といたします。

平成三十一年三月二日

卒業生代表 黒澤綺香